
2つの世界。

しいくれっと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

2つの世界。

【Nコード】

N7875X

【作者名】

しいくれつと

【あらすじ】

普通の中学生のはずだった！？

第1話目

あたしは普通の中学生
そう、普通の女の子

、、、のはずだった。

あたし、松岡莉乃は
中学生であり特殊部隊のスパイでもある

スパイであることは極秘

世間から見れば普通の中学生
裏をのぞくと特殊部隊のスパイ

まさに2つの世界を生きてるんです

「なんて、、、いつてみたあああい!」

美空「んなことあるわけないっしょ」

「ちよっとぐらい夢みさせてよ」

美空「はいはい」

本当はそれに憧れる
ただの中学生なんです。

「あゝ、スパイとか憧れる〜」

美空「めんどくさそうじゃん」

「銃でバンバンって、かっこいいじゃん」

美空「莉乃らしいね。」

「あ、いつのまにかこんな時間だ」

美空「あ、ほんとだ。帰る？」

「うん、そろそろ帰るね」

美空「わかった〜、じゃあね！」

「また明日〜！」

美空と別れてあたしは
まっすぐ家にかえった。

第2話目

―その日の夜―

「おかあさん」

母「なに？」

「コンビニ行ってくる」

母「きおつけてね」

プリンが食べたい

プリンが食べたい

プリンが食べたいいいいいい！

あゝはやくつかないかな

とか思いながらコンビニへむかっていた

途中だれかとぶつかった

どんっ！

「あ、すいません」

？「いや、、、君にきめた」

「は？え、ちよっ！」

ぶつかつた人の顔はよくみえない
いきなりわけもわからないことを
言われたとおもつと

あたしに手首をつかんで歩きだした

「ちよっ、なんですか！」

手を振り払つてあたしは説いた
相手は「いいからついてこい」
としか言つてはこなかった。

しばらく歩いて着いた場所
それは、近くの施設の裏口だった

？「このゴミ箱は秘密の入り口だ」

「うわーお」

？「いいからはいれ」

「こわい、でもワクワクするからいいや！」

あたしはゴミ箱のなかにはいった

すると、そこが抜けてあたしは落ちていった

どんっ

落ちた先は色々な機械がある部屋だった

3ぶんぐらいして相手も落ちてきた

「ここはどこ？」

？「ここは特殊部隊BBIの事務所だ」

「とっ、特殊部隊！?!？」

太一「俺は太一。年はお前と同じくらいだろっ」

「で、なんであたしはここにいるの？」

太一「実は色々あつて組織に1人追加しなくちゃいけなくなつた」

「もしかもしかまして」

太一「お前をBBIに招きいれたい」

うわーお、ききましたか？

憧れていた特殊部隊に

あたしを招き入れるつて

え？てかほんとにあるなんて

おもつてもいなかつた

あたしは完全に浮かれていた

第4話目

太一「BBIにはチームがあるんだ」

太一の話によると

おおきく3つに別れているらしい

まず、化学系

敵の指紋などを再現し

てぶくろをつくったり

薬を開発しているチーム

次に、戦闘系

スパイなどはここ

おもに危険なチーム

勇敢なチームだ

最後に、機械系

時計を改造して

仲間と連絡をとれる機械や

CGによるインターネットの開発

そんなのを開発するチームだ

あたしは戦闘系にはいるらしい

ちなみに太一も戦闘系だ。

太一「そういえばお前名前は？」

「あたしは、松岡莉乃」

太一はパソコンに打ち込んだ

あたしは太一にBBIの話を一通り聞いた

太一「おっと、もうこんな時間だ」

「あ！！！2時間はたってるやばいやばい」

太一「まだ色々やらなきゃいけないことがある。明日18時にここにきてくれ」

「了解です！！」

太一「あとこのことは絶対秘密だ」

「おっけい！それじゃあまたね」

あたしは施設をさった。

第5話目

ガチャッ

「ただいま」

母「おそい！心配したでしょ！」

「ごめん、あ！きいて！あたしね！」

あ、、、いつちゃいけないんだった

母「なによ？」

「、、、なんでもない！」

母「え？ちよつと！莉乃おおお！」

お母さんの声なんか

きこえなかった、、、とゆうことにしとく

あたしはすぐに眠りについた

母「莉乃、おきなさい」

「あと5分、」

母「おきないと殺すわよ、んふ」

「おきますごめんなさいおきます」

母「机に、はんおいてるわよ」

「ありがとう」

あたしはいつもより
余裕をもって家をでた

第6話目

―学校―

「おっはよーうよーう」

美空「朝からてんそんたかつ！」

「ぐへへ、てんそんそん」

美空「キモいからWWW」

「ええねん！あゝはやく終わらんかな」

美空「学校が？」

「うん！！」

キーンコーンカーンコーン

「あ、鳴った。」

美空「はやく席もどつたらっ？」

「美空つめたっ！いまから戻る」

あー、早くいきたいBBEにいきたい
わくわくするな、怖いけど！笑

ー放課後ー

先生「では皆さん、さようなら」

皆「さようなら」

がちゃがちゃ

「美空、かえろ」

美空「うん！つかれた」

「わかるー！早く家つかんかな？w」

それから他愛もない会話をして
美空とあたしは別れた。

がちゃ

「ただいまー」

母「おかえりー」

18時がまちどおしいぜーいえーい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7875x/>

2つの世界。

2011年11月8日16時08分発行